

アクティブ・ラーニングによる特別活動論の学び

今野紀子*

Learn of theory of extra-curricular activity by active learning

KONNO Noriko*

キーワード：アクティブ・ラーニング，特別活動論，教員養成，グループ・ワーク

1. はじめに

アクティブ・ラーニングは、現在国の教育政策の中で学習過程の質的改善の重要なキーワードである。対話的・主体的で深い学びを目指し、教員が何を教えたのかよりも学生が何を学習したのかに着目し、教授から学習への視点の転換が求められている¹⁾。これは大学における学士課程教育の他、次期学習指導要領にも盛り込まれる方針である。文部科学省「新しい学習指導要領等が目指す姿」(2015)の「育成すべき資質・能力と、学習指導要領等の構造化の方向性について」によれば、何を知っているかだけでなく、知っていることを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかというところに視点が置かれ、アクティブ・ラーニングの意義が明記されている²⁾。中央教育審議会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について ～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～(答申)」(2015)では、教員養成課程においても、アクティブ・ラーニングに関する指導力や適切な評価方法の育成が求められている³⁾。

本研究ノートでは、このアクティブ・ラーニングの成果と課題について、筆者が所属する学部(以下、本学部という)の教職課程科目「特別活動論」の授

業を通して検討を行った。

2. アクティブ・ラーニングとは

アクティブ・ラーニングの定義は一つではないが、中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」(2012)の用語集では、以下のように定義されている⁴⁾。

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

同答申では、学士課程教育に求められる質的転換について『従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・

*情報環境学部情報環境学科教授 Professor, Department of Information Environment, School of Information Environment

ラーニング)への転換が必要である。すなわち個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めることが求められる。』とし、大学教育におけるアクティブ・ラーニング導入の目的と方向性が示されている。

3. 特別活動論の授業

教職課程科目「特別活動論」は、教育職員免許法教職に関する科目中、教育課程及び指導法に関する科目であり、「特別活動の指導法」事項を内容としている。本学部では、1単位科目で3年次相当の学生を対象としている。授業の目標と計画を以下に記す。

【授業目標】

特別活動の意義と位置づけの理解を深め、特別活動の指導法を修得する。授業ではグループ・ワークを通して、ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事といった学校教育における特別活動の内容と指導法を学び、特別活動の現状や今後の課題について考えていく。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンスー特別活動の意義と目的一
- 第2回：特別活動の理論（1）特別活動の位置づけと学習指導案の作成法
- 第3回：特別活動の理論（2）望ましい集団活動と育成方法
- 第4回：特別活動の指導法（1）ホームルーム活動
- 第5回：特別活動の指導法（2）生徒会活動
- 第6回：特別活動の指導法（3）学校行事
- 第7回：特別活動の現状と問題点
- 第8回：総括求められる特別活動と今後の課題

テキストは、文部科学省「高等学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領解説特別活動編」を使用。評価は、グループ・ワーク（30%）プレゼンテーション（30%）レポート（40%）である。

4. 学びの方法

「特別活動論」の授業へのアクティブ・ラーニングの導入は、以下のような形で行った。

(1) 学習課題の提示と教材の配布

第1回の授業内のガイダンスで、アクティブ・ラーニングによる学習活動と学習課題（後述）、グループ編成、評価方法などについて学生達に説明し、関連資料を配布した。

(2) グループの編成

グループ・ワークは、「ホームルーム活動」「生徒会活動」「学校行事」の3班に分かれて行い、学生の希望を優先しながら、4~6名を基準に各班が均等になるように人数を調整して編成した。

(3) 各グループでの課題の学習

協同学習:グループ内の学生で協力しながら以下の学習課題に取り組み、その成果をまとめて30分間のプレゼンテーションを行うこととした。

学習課題:「ホームルーム活動」「生徒会活動」「学校行事」のグループごとに、「高等学校学習指導要領解説特別活動編」を参考に、目標・内容・指導計画の作成と内容の取扱いの配慮事項について、ポイントをわかりやすくまとめる。その上で、各自が高校時代に体験した特別活動の事例に鑑み、メンバーと現状の問題点や解決策をディスカッションする。さらに、「ホームルーム活動」グループにはLHR時に効果的な活動の提案、「生徒会活動」グループには生徒の自主性向上に役立つ教員からの支援方法の提案、「学校行事」グループには学年別の行事の特徴をあげることを、それぞれ課題として与えた。

(4) 授業時間外での学習

グループでの学習活動やプレゼンテーションの準備は、基本的に授業時間外に実施させた。

(5) 学習成果の確認

各グループとも授業時間内に実施したディスカッションには教員が参加し、グループ・ワークの進捗状況を確認した。その際、必要に応じて教員から助言等のフィードバックを与えながら、軌道修正や学習が深化するよう工夫を行った。

グループ・ワークの成果発表では、30分間のプレゼンテーションの後、非発表グループの学生と教員から発表グループに質疑を行った。その後、学生

相互の評価（発表の態度や内容、良かった点や改善すべき点など）を行い、その評価結果を公開した。また、振り返り（後述）として総括レポートをまとめさせることで、個々の学びの成果を確認した。

(6) 振り返り

各自が本授業を通しての学びを総括レポートにまとめることで、学びの振り返りを行った。アクティブ・ラーニングについては、「特別活動のテーマ別研究を担当したことで新たに学んだ点、理解が深まった点はどこか」について記述させることにより学びを整理させ、授業全体の振り返りと各自の課題を明確にさせた。

5. 成果（総括レポートから）

以下に、平成 27 年、28 年の受講生（20 名）対象の総括レポートで記述された意見を抜粋する。

<生徒会活動について>

(1) 生徒会が生徒の自主性・自発性を育む役割を持つこと、しかしそうした役割への期待とは裏腹に、実際の学校ではあまりうまく機能していないことと、その原因を知ることができた。

(2) 高校時代に生徒会長をやっていた経験から、学習指導要領の内容と実際の生徒会活動には隔りがあることを実感した。

(3) 生徒会活動は一部の生徒会役員のためにあるものだと勘違いしていた。教員になったら、生徒会のある理由、誰のためにあるのか、生徒達にしっかり伝えたい。

(4) 高校時代は、自分が生徒会会員という自覚すらなく、生徒会が何を行っているのかも知らなかった。生徒会活動の目標達成には、生徒間や教員との連携が必要である。

<ホームルーム活動について>

(1) 自分とは異なる、他者の取り組みや意見を聞くことができて参考になった。自分が教壇に立ったら、ホームルーム活動の時間を無駄に過ごさず、生徒達のために役立つ時間にしたい。

(2) 高校生のときは、特別活動には特に意味を感じなかったが、今回の学習でその意義を知り、理解がより深まった。教員になったら、学んだ内容を単なる知識ではなく、その本質が生徒達に伝わるよう

な創意工夫をしたい。

(3) 自分が体験したホームルーム活動だけが、ホームルーム活動ではないことに驚いた。特別活動では生徒自身に考えさせていくことが大切であり、教員は生徒や状況に応じて、どのように対応していくかを考えねばならないと感じた。うまく工夫することで、ホームルーム活動をよりよいものに出れると思う。

(4) 今回の学びで、ホームルーム活動にも年間計画や学習指導案の作成があることを知った。先生はかなり考えてホームルーム活動を行っていたことが分かった。

<学校行事について>

(1) 生徒のときは、単なる息抜き程度に思っていたが、その意義と必要性を理解できた。

(2) 学校行事を行う上で、その意義を明確に生徒に伝えることが大事だと思った。例えば、「修学旅行で沖縄に行って楽しかった」だけで終わらせないような工夫が大切である。

(3) 教員や学校は、それぞれの学校行事に狙いや目的を定め、全体を通してつながりを持たせるように生徒を指導していたのだと思うと、自分が教員になったときには、生徒のときとはまた違った角度で学校行事と向き合う必要があると思った。教員になったときの自分のことを具体的に考えるよい機会になった。学校行事本来の目的をしっかりと生徒達に身につけさせるような教員になりたい。

(4) 生徒だった頃は、当たり前のように思って楽しんできた体育祭や文化祭などの学校行事だが、それぞれに目的や意義があることを知り、非常に興味深く感じた。自分が教員になっても、忘れずにしっかりと行事の意味付けを行いたい。

総括レポートからは、アクティブ・ラーニングを通して特別活動の意義や現状の問題点についてよく理解できたこと、生徒の時に体験した特別活動を思い出しながら、生徒・教員双方の視点で特別活動を考えることができた様子が窺えた。さらに、自身が教員になった際には、生徒に特別活動の意義をより積極的に理解させる工夫をしたいという意欲的な感想も多く見られた。学習指導要領における特別活動の目標は「望ましい集団活動を通して、心身の

調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。」という抽象的な内容であるため、なかなか実感を持った学びが難しいが、グループ・ワークによるアクティブ・ラーニングを行うことで、各自の体験を基にしながら、同時に他者の体験や事例も知り、より実践的な学びが達成できたと思われる。

6. 課題

アクティブ・ラーニングに関する指導力や評価方法の育成・学修が適切に行われるよう、教職課程の授業そのものにアクティブ・ラーニングを導入する必要性が指摘されている³⁾。今回、特別活動の指導法について学ぶ「特別活動論」にアクティブ・ラーニングを取り入れたが、学生達は、グループ・ワークへの参加によって、より深い学びを得られたようだった。一方、以下のような課題も散見された。各項目についてその課題を記す。

(1) 学習課題と評価方法の提示

学生のモチベーションを高めるためにも、アクティブ・ラーニングによる学びの意義と目標をより明確に説明すべきであった。また、評価方法についても、学習の達成度を判断する基準をわかりやすくルーブリックで示す必要がある。

(2) グループ編成

受講生は、同一クラスが複数の教職課程科目を一緒に学ぶので人間関係が既にできており、アイスブレイクによる関係づくりは行わなかったが、状況によっては実施することが奏功する。また、グループ分けは学生の希望を優先して行ったが、「生徒会活動」は高校時代に生徒会役員を経験した学生以外はイメージを持ちにくく、希望者が少なかった。中には本人の希望に沿わない配属となった結果、やる気

が感じられない学生もいた。事前の動機付けに関して更に工夫すべきであろう。

(3) 学習活動成果の確認

グループ・ワークでの取り組みには個性や個人差があり、リーダー的な学生が自分一人で課題の大半をやってしまうケースや、反対に、かなり参加に消極的な学生も存在した。こうした教員から見えにくい面の把握は留意すべき点である。学習課題を事前に十分に組み立て、グループ内の各学生の役割分担を明確に指示する等の工夫が必要だと思われる。また、アクティブ・ラーニングでは、学生の学びを促進させるファシリテーター役の教員の仕事が重要であるが、学生達に主体的に取り組ませるような助言、適切な介入方法の選択など、教員側のスキルの向上も課題と思われる。

参考文献

- 1) 中井俊樹 (編著) (2015) 「シリーズ大学の教授法 3 アクティブラーニング」, p.3, 玉川大学出版社
- 2) 文部科学省 (2015) 「新しい学習指導要領等が目指す姿」, 平成 28 年 9 月 22 日取得, http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryou/attach/1364316.htm
- 3) 中央教育審議会 (2015) 「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い, 高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～ (答申)」 (中教審第 184 号) 平成 28 年 9 月 22 日取得, http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf
- 4) 中央教育審議会 (2012) 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け, 主体的に考える力を育成する大学へ～ (答申)」, 平成 28 年 9 月 22 日取得, http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm